

いちじくの生産量の拡大

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

植栽10年を超えるほ場が大半を占める高島管内のいちじくは、病虫害の発生や気象災害による収量低下、それに伴って意欲が低下したことによる生産者の減少が問題となっていました。また、生産者により栽培技術の習熟度に差があり、特に栽培経験の浅い方の収穫量が低いことが問題となっていました。一方で販路はしっかりと確保されており、「高島いちじく」がほしいという声も多くあることから、需要が満たされていない状況が続いています。

そこで地域特産物の再興を目的に、「高島いちじく」が今後も安定して生産が続けられるよう支援活動を行いました。

【普及活動の内容】

(1) こまめな現地巡回

ほ場ごとの生育差をなるべくなくすために、定期的に全ほ場を巡回し、防除暦にない病虫害の発生などの問題が生じた際には情報提供を行うとともに、実際にほ場での指導も行いました。

また、栽培経験の浅い方に対して特に重点的に巡回を行い、作業の理解度を確認すると共に適期に確実に実施されるよう支援しました。

(2) 研修内容の改善

他の生産者のほ場の様子が知りたいという声を受け、出荷前研修会や反省会において、現地巡回の際の各ほ場の様子を写真で伝えるなど高島の生育状況をより把握できるよう工夫しました。



写真1 出荷前研修会の様子

【普及活動の成果】

R2年度は 2.1t であった「高島いちじく」の出荷量を、R3 年度は 3.9t まで増加させることができました。こまめな現地巡回と生産者の意見を反映した研修会を開催することで、生産者が自身のほ場の問題点について考えるようになり、改善しようという意欲が見られるようになりました。

今後も現地巡回を定期的に行い、ほ場の変化や全体の生育状況等から事前の対策をとっていきけるよう働きかけていく予定です。

◎対象者の意見

研修内容に変化が見られてよかったと思う。今後は新規生産者を確保し栽培面積を維持していくためにどういう対策をとればよいのかという点についても助言いただきたい。(生産者)